

大津小便り

平成二十八年
七月二十一日
文責吉良昌

あの日を振り返つて――その一

夏休みに入るに当たり、この数ヶ月を振り返ってみます。よい夏休みを

五月九日（月）の取材依頼が、多くのマスコミから寄せられました。阿蘇大橋の崩落で、南阿蘇西小学校に通えなくなってしまった子どもたち二十一名。本校の子どもたちも同じように被災し、九日は、「二度目の始業式」になります。土・日の校長室で、どんな話をしらいいのか、とても考えました。

らばらの状態で、欲しい情報や交流もままならない感じでした。本校の担任も、保護者や元担任の皆さんと直接話がしたいと願つていきましたので、五月十八日（水）の夜、図書室における保護者との意見交換会を設けました。南阿蘇村教育委員会や南西小の方々も、この機会を利用して説明会を実施されました。なお、本校のPTA会長さんが呼び掛けたて、南西小の子どもたちに、本校の標準服のお下がりを集めてくれましたので、そのサイズ合わせも行いました。南西小の保護者の皆さんとの期待に添えないことや説明不足で心配させたりしたこともありましたが、少し、南西小の保護者の皆さんと大津小職員との心が近づいたと感じた日でした。

五月九日（月）は、あいにくの雨。一時間会をすると同時に、各学級では担任からの話を聞いていました。地震のことは、忘れなさいと言つても忘れられるものではありません。お互いの体験として自然な形で言葉に出し合ふことで、少しつ気持ちが落ち着いていくと聞きました。二時間目、校内放送を通して、「おはようございます」という大きな返事が職員室にも聞こえてきて、胸が熱くなりました。

九日（月）から十三日（金）までの間は、南西小の子どもたちにとつては、やはり緊張不安の日々だったようです。突然の地震のために友だちに別れも言えず、学校や地域へ向けていいふのではす。保護者の皆さんも同様のようでした。十六日（月）までに四名の子どもたちが、南西小に戻る選択をされました。南西小の子どもたちは十一名になりました。南西小に入られたので、南西小になりました。

南西小の子どもさんたちは、本田技研の避難所の他、熊本市内や菊陽町、大津町内など形でした。立野地区のコミュニティーも、ば

五月二十三日（月）の週は、南西小からの連絡事項の共有や「一時預かり」の今後について、両町教育委員会及び南西小の校長との会議を行つたり、菊池の教育事務所長の訪問ヒアリングを受けたりしました。本校には二名の教職員の緊急配置を受けていましたが、子どもたちへのカウンセリング等の環境や職員への支援の必要性が高まつてきました。

五月二十九日（日）の運動会は、雨のために順延になつたものの、充実したすばらしい運動会になりました。PTA役員さんから南西小の保護者のみなさんへ差し入れがあつたり、南西小の保護者の皆さんも交えての特別

七月十四日（木）の授業参観及び学級懇談会は、いかがでしたか。夏休みの教育相談と併せて、子どもさんの今後の育みにつながればと思います。

十五日（金）は、キラ
キラ集会、二十日
(水)は、6年生の校
内水泳大会でした。
・・・八月二十二日
(月)が、前期後半の開
始日となります。

手のナオトさんなどが学校に来てくださったり、東京の五年生や、昨年、大津小で研修をされていた福井県の浅野先生、さまざまの人達からの見舞金が寄せられましたので、まずは、プール用の時計を購入させていただきました。壊れた展示ケース等の買い換え等を予定しています。

七月に入ると、本校にも、岐阜県から養護教諭の先生に来て頂けることになりました。

現在、元気で笑顔が素敵な、渡邊実里先生が勤務されています。神戸からフエリーで門司に入り、本校に着任されました。子どもたちへの対応が、さらに充実しています。九月末までです。

十月から十二月は浅野綾子先生、一月から三月までは長尾ひとみ先生の予定です。

競技を実施したりして、互いの親交を深めました。マスコミの取材もあり、子どもたちの元気な姿が紹介されました。

運動会が無事に終わり、大津小学校の生活も、少しずつ「日常」を取り戻していきました。朝の読み聞かせ・朝の学習ボランティア・熊本版コミニティスクールとしての学校運営協議会・「生活数理」の授業研など、多くの活動が再スタートしました。併せて、子どもたちの心のケアに関しまして、特別支援学校のコーディネーターの先生が、毎日本校に来て、担任等へのアドバイスをして下さることになりました。加えて、福岡県のカウンセラーの方が午後毎日来校していただき、子どもや保護者、教職員へのカウンセリングを実施してもらえるようになりました。

